

2019 年度下期 助成金交付先

2019 年度下期 助成金交付先として、以下の 4 社を選出し、2 月 4 日に交付式を行いました。

< 1 >

交 付 先 株式会社 ポリスフェア（本社：柏市）
代 表 者 代表取締役 後 藤 英 樹
業 種 製造業、体外診断薬用原料の開発・販売
業務内容・研究開発内容

【 ポリスチレン系ラテックス（高分子微粒子）の発展と応用 】

当社は、体外診断薬の原料となるラテックス、および、それを活用した試薬の製造を行っている。ソープフリー重合において乳化剤を含まないポリスチレンラテックスの作製というコア技術を有しており、当社作製のラテックスは、「粒子形状が真球状」、「極めて狭い粒度分布」等の優位性を持つ。

この数年は、中国を中心に、原料ラテックスの需要が増加しつつあり、当社では、こうした市場環境を踏まえ、原料ラテックスの販売に注力中。

今後、中国向けを中心に輸出を伸ばしていくには、品揃えの充実とともに、「ポリスフェア」という企業名の周知・ブランド力の向上が不可欠で、当社では、その手段として、標準粒子の開発（国際標準粒子メーカーとしての認定取得）に取り組んでいる。

< 2 >

交 付 先 株式会社 海底熟成研究所（本社：千葉市中央区）
代 表 者 代表取締役 佐 藤 尚 徳
業 種 その他サービス業
業務内容・研究開発内容

【 海底熟成ワインの効果的な熟成方法の研究と販売 】

当社は、ワイン等を「海底の水圧によって、通常保管環境よりも短期間で熟成する製品の研究開発」を目的に、千葉市産業振興財団の協力の下、CHIBA-LABOにて設立。

これまでに、海底熟成を行う宮城県牡鹿郡女川町沖の海域の漁業関係者との協力関係構築、熟成設備の準備、ワインボトルに海水がしみこまないためのノウハウ確立等に取り組み、ワイン輸入業者からボトルの防水加工と海底熟成を受託するほか、自社でワインを仕入れ、海底熟成を手掛けている。

ワインは、海底の方が地上保管より早く熟成が進むが、現状、その科学的な根拠は不明。当社では、ワインが海底熟成されるメカニズムを研究し、感覚や印象だけに頼った販売ではなく、明確な理由を消費者に説明することで訴求力を高め、効果的な海底熟成ワインの生産につなげていく方針。

< 3 >

交 付 先 株式会社 塚本（本社：千葉市中央区）

代 表 者 代表取締役 塚 本 恭 夫

業 種 石油製品卸販売業、不動産賃貸業

業務内容・研究開発内容

【 社会のライフラインを繋ぐ燃料備蓄タンクメーカーとして、
新たな変革を目指す 100 年企業の取り組み！ 】

自動車のハイブリッド化、電気自動車の普及、工場燃料の電化・ガス化等、石油需要が年々減少するなか、当社は、石油製品卸売業から、石油関連製品のメーカー・開発型専門商社への転換を目指している。

その第 1 弾として、取り組んでいるのが「自家発電装置向け燃料備蓄タンク」の製造・販売。本製品は、二重構造のアルミ製タンクに軽油等の燃料を保管しておき、必要時に蛇口をひねり、自然落下で燃料を取り出す・給油する物で、以下の新規性・優位性を有する。

1. デザイン性に優れる … 千葉工大との連携で工業デザインを採用
2. 免震機能 … 全国初の取り組み。専門機関での実証実験済
3. 二重殻構造 … 燃料温度の上昇を防ぐ安全構造
4. コンパクト設計 … 防油堤一体型で設置スペースが小さい
5. オールステンレス製 … 高い耐久性 等

ターゲット市場は、病院、介護施設、役所、指定避難所、銀行等で、病院については、既に、管轄する消防署への届け出もクリアし、千葉市内 2 か所への設置が決まっている。

< 4 >

交 付 先 株式会社 カーム・ラーナ（本社：千葉市中央区）

代 表 者 代表取締役 中 村 順 一

業 種 医療機器の研究開発、コンサルタント業

業務内容・研究開発内容

【 健康寿命を向上させる！ 生涯歩くための携帯型股関節手術台と大学発純国産インプラントの萌芽的研究 】

当社は、千葉大学発のベンチャー企業で、代表は整形外科の医師。

股関節に関する診療・研究・教育に従事するなか、産学共同で、「股関節専用の手術台 ルキキュア」と「人工関節 ミルフィー」を開発・商品化した。

手術台は、大型の据え置き型でなく、通常の手術台に取り付ける形で使用する携帯型で、価格も抑えられている。また、自由にフレームを動かして患者の足を支えることができる仕様としたことで、従来の手術では不可欠であった足を持つ助手の必要がなくなり、結果、病院にとっては、人件費の削減が図れることになる。

人工関節については、日本人の体形に合わせた純国産というのが最大の強み。また、固定強度を高めるために医学的な工夫を加えたほか、左右兼用とすることで、在庫管理の省力化とともに、生産コストの低減を実現している。